

地域と連携したキャリア支援



富山大学
キャリアサポートセンター
特命准教授

荒井 明



本学では、富山大学、富山医科薬科大学及び高岡短期大学を再編・統合し、富山大学となった平成17年にキャリアサポートセンターが設置された。昨年2月に五福キャンパスの中央に位置する学生会館がリニューアルし、キャリアサポートセンターは学生会館の2階に従来の約3倍のスペースで配置された。

学生会館には、キャリアサポートセンター以外に「学生支援グループ事務室」、「学生支援センターなんでも相談窓口」、「留学支援チーム事務室」、「アクセシビリティ・コミュニケーション支援室」などを設けており、ワンストップサービスを実現している。

センターの運営体制

現在、キャリアサポートセンターの傘下に、「就職支援室」、「インターンシップ支援室」、「富大流人生設計支援室」の3つが設置されており、学部就職支援グループと共に就職支援・キャリア支援そして人生設計を支援している。

3キャンパスにおける就職ガイダンスや学内合同企業説明会、業界研究会などの就職支援や正課授業としていくインターンシップ、短期職場体験支援、そして地域と連携したキャリア支援などを行っている。

富大流人生設計支援プログラム

富山県では、1999年度から県内の全ての公立中学校の2年生全員を対象に5日間の就業体験を行う「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を実施している。

全国の公立中学校で行われている職場体験の約9割が3日以内であるのに対して、富山県では5日間、しかも全中学生が参加する。親や先生以外の大人や地域社会と実際に接し、「緊張や不安」、「疲労や仕事の厳しさ」を乗り越える実体験からさまざまなことを学ぶことを目的としている。

この「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」と大学生が体験する「インターンシップ」事業をつなぎ合わせたのが「富大流人生設計支援プログラム」である。初めて地域社会に接する中学生の不安や緊張の緩和、中学生が自立するためのサポートとして、インターンシップで学んだ大学生が、再度教える立場で「14歳の挑戦」に参加するものである。また、地域と連携したプログラムの一貫として、ある中学校との取り組みで

「15歳の選択」という分断されたキャリア教育を繋ぎ合わせることを目的としたプログラムも実施している。大学生が受験を目の前にした中学3年生に対し、自らの夢を叶えるために努力した苦労話や失敗談、高校生活・大学生活に力を注いできた実体験の話を語ることにより、中学生の人生の大きな選択の一助となると考え、実施している。

キャリア支援から人生設計支援へ

キャリア教育が広い意味で浸透・普及するにつれ「キャリア」に対する概念が大きくずればはじめ、キャリア教育Ⅱ就職支援、就活スキルの向上（演技力養成講座）であると勘違いした教職員も増えていっていると感じる。さらには外部機関に丸投げする大学も見受けられるのが現在の実情である。浸透してきた今だからこそ、「本当に現在行っているキャリア支援は学生の将来に繋がっているものなのか？」をそれぞれが真に問う必要がある。

「若者を育成しよう」という思いの土壌があるこの県においては、敢えて多くの情報は与え過ぎず、自然と共に自分のキャリア形成をしていくことが望まれ、就職支援・キャリア支援を超えた「人生設計支援」をより充実していくことが大切だと考えている。

そして若者が将来に「夢と希望」を持てるよう、大人たちが誇りを持って、辛さや厳しさを超えた時の楽しさや生きがいや伝える機会や、地域と連携して年齢を超えた他者とのつながりを持つ機会を増やすことこそが、人生設計支援に繋がると信じている。

